

2018年3月21日（水・祝）13:30～14:50

ホテルメトロポリタン長野（長野市）

尾木直樹氏（教育評論家）、茂木健一郎氏（脳科学者）、阿部守一（長野県知事）の「おぎ・もぎ・あべ」鼎談記録

メモ起こし・文責：柳沢克央（篠ノ井高等学校・理科）

◆まえがき

講演会には二種類ある。席が後ろから埋まるそれと、前から埋まるそれ。今回はみごとに後者。開場時刻 12:30 では良い席が取れないだろうと予想し、12:10 頃到着。この時点で行列ができており、開場時刻には 150 人ぐらいの行列ができていた。これには知事も驚いていた。過激な発言で知られる茂木氏曰く、「自治体の首長との対談は初めて」。2019 年の全国高等学校総合文化祭長野大会の PR タイムの前座で楽しませてもらったあと、聴衆 600 人の熱い視線を集めて鼎談に入った。それでは、どうぞ。

◆鼎談抄録

尾木：自由を生き抜く実践知が大切。学ぶことによって人間は自由になれる。2030 年には AI の時代を迎える。興味関心をとことん追求する教育が求められている。学ぶことは人間の本能。

茂木：心臓の鼓動と同じように、脳も絶えず学び続けている。生きていることはすなわち学んでいること。学校、授業だけが学びの場ではない。

尾木：ブランド大学に向けて勉強の偏差値競争をさせたのがかつてのやり方。これからの学びは社会を豊かにするために、まず自分を解放することが求められる。学歴ではなく学習歴が重要。学習歴をどう積んでいくか。こんなに遅れているのは先進国中では日本だけ。中高 6 年間はワンセット。国際的に日本は厳しい状況に置かれている。

阿部：とかく日本では学歴街道の一本道を外れると「変なヤツ」と言われる。本当にいい学校とは「自分に合った学校」。現在の教育システムを変えていかなければならない。

茂木：AI の登場により、従来の学力では間に合わなくなってきていることを若者は本能

的に察知している。時代は大きな変革期。たとえば、地上を時速 1000km 以上で輸送するシステム（ハイパーループ）が実用化に向けて進められている。教科書は完全に時代遅れ。時代とカリキュラムの不整合状態。

尾木：中学生棋士の藤井聡太さんは幼い時にモンテッソーリ幼稚園に通っていた。好きなことをどんどんやらせてくれる幼稚園。藤井さんはハートバッグをひたすら作り続けていた。一日 100 個。これはとてもすごいスピード。こうした教育のおかげで藤井さんは新しい能力をいっぱい身につけている。学校の主役は子どもたち。うまくいっている学校は例外なく子どもが主役。子どもたちは必ず教師を乗り越えていく。どの地域でも探求科の取り組みは必ず成功している。探求科では好きなことを学ばせる。琵琶湖の水質改善を継続的に 3 年間研究した高校生は「これを大学で学びたい」と思うようになり、モチベーションが高まる。まったく知られていなかった普通の高校から、京大へ何十人も合格するようなことが起きている。普通の高校が激変する。人間は可能性の塊だ。OECD では「education2030」を掲げているが、日本は完全に遅れている。2030 年には全職種の 49% が AI にとって代わられるという予想がある。アメリカの場合には 2050 年に 100% 置き換わるという予測まである。大手銀行の窓口業務が AI に替わるため、いま急速に人員削減が進められている。

阿部：県立松本県ヶ丘高校の生徒たちが昆虫食の研究で地方創生アイデアコンテストで地方創生大臣賞を受賞した。OIDE 長姫高校でも先進的な取り組みが行われている。長野県の高校生も素晴らしい。私は文部科学省はなくてもいいのではないかと考えている。

尾木：いま自民党の国会議員が愛知の中学校に前川氏の講演内容を照会したことが問題になっている。力のある人は圧力を感じさせない方法を使うことが大切。文部科学省全部が悪いわけではない。とても優秀な幹部がいて、活躍しているのも事実。

阿部：行政の仕事の進め方にどうも「合成の誤謬」のようなものが生まれているのではないかと常々感じている。

茂木：江戸時代の大知識人は江戸ではなく地方に暮らしていた。本居宣長はずっと三

重県の松坂にいた。賀茂真淵に一晚だけ逢って教えを乞うていた（松坂の一夜）。たった一度しか逢っていないのだが、決定的な一夜だった。このようにどの地域でも自らほこりを持って学ぶことは可能。きっかけは必要かもしれない。自分の受けた教育を相対化する能力はとても大事。自らの人生は自分で決める。

尾木：職業高校・総合学科では未来を託せる力量豊かで実践力がある生徒が育っている。ある農業高校の畜産科の生徒たちが育てた牛は専業畜産家の育てた牛を越えて品評会で特賞に入賞した。こうした学科で学ぶ生徒たちには大人に優る力量と牛への愛情がある。いまいちばん気の毒なのは普通科の進学高校。大学に受かること以外に何のとりえもない。愛知県の私立東海中学高校の生徒たちは深いところから学んでいる。東京の麻布中学高校の生徒たちは福島の被災地に体験学習に出かける。地域復興の現場を体験して生き方が変わる。先生たちは「目つきが変わった」と言っていた。新しい目標が見つかりとパワフルに学びだす。これからの教育は「知能指数」ではなく「人間性指数」を高めることが勝負。

茂木：高機能自閉症の子供たちの教育をどうするか。コミュニケーション能力に欠けているという特徴がある。特別な才能があるギフテッドと呼ばれる子どもたちの中にもコミュニケーションが苦手な子どもたちの割合が高い。これからは、少人数でそれぞれの子どもに合わせた教育が大切。こうした子どもたちはたとえば「数学オリンピック」のような決まった形を持つ尺度では測れないものを持っている。米国では「ホームスクーリング＝自宅学習」が必要な子どもが100万人単位でいるとのことだ。日本の不登校問題もこれからはAIなどを用いることにより、「ひとりひとりに合わせた《ライザップ》型の学習」を取り入れることが必要だ。

阿部：文科省の調査で毎年、都道府県ごと学力テストの平均点が公表されている。私は平均点を決めるマス（集中している部分）よりも上の生徒を伸ばすことと、下位の生徒の底上げが大事だと考えている。ところで、長寿社会を迎えた今、公民館活動が長野県では特に活発だ。大人世代の学びはどう考えたらよいでしょうか。

尾木：生涯学習に大学がもっと貢献できるということを自治体は本当に知っているのか。大学を活用しないとったいない。日本の大学進学率は現在52%。約30年前のフィンランドはソ連依存体質。失業率は20%。ヘイロネン教育相が大胆な政策を実施した。

幼稚園から大学までの教育を無償化した。「教育は未来への投資」との考え。10年後に得られるメリットを数式化して国会を通して実施。1994年に開始。2000年の国際学力調査でトップに躍り出た。オランダではワークシェアリングを進めて労働生産性を1.5倍に向上させた。フランスでは2歳から公教育を始めている。日本の7歳開始では遅い。先進的な幼児教育では子どもは異年齢集団で教育。時間割も自己決定。自己責任が自立を早める。

茂木：人は何歳においても学べる。脳のメカニズムの特徴は今までにあることを元に関連付けて学んでいくことにある。いかに今までの知識を生かしつつ、まったく違うことをやるかということがポイント。若宮テイ子さんは80歳の現役DJ。都市銀行を定年退職後にDJになるために学び始めた。自分が不安だと感じるほどに新しいことをやってみませんか。ICTは若くなくても取り組める。ただ、ここで大人の「安全基地」をどう与えるかが一番の課題。

阿部：世代間の協働，分担が大事。世代間交流をもっとフラットにして，一緒にお互いに学びながら高め合っていくことが大事。

尾木：フィンランドの大学進学率の目標は100%。大学は生涯学習の一環という位置づけ。日本の大学一年生が18歳で占められているというのは国際的に見て異常。70歳で起業して大成功している人もいる。みんなが大学生になれるという受け皿を整備することが求められる。先生たちはまず，子どもたちの声をきいてあげて。（盛大な拍手で三者退場）

◆あしがき

熱気と笑い溢れる，素晴らしい鼎談だった。茂木氏もほめていたのは，旧来の「学歴社会」で頂点を極めた阿部知事がこのような革新的な取り組みをリードする気概を持ち，改革を進めようとしていること。今後の展開が注目される。阿部知事説くところの「合成の誤謬」は教育行政だけでなく，学校組織の現場の問題でもあると感じながら聴いていた自分がいた。「そうだ，これは他人事ではない。我々現場教師一人ひとりが取り組み，解決し，前進していくべき課題である」と感じ，こうしてワープロを打ちながら，記憶を整理している段階。〔2018年3月23日（金）5:40 篠高離任式の朝〕